

# アラ かん 新生活

ふちんかん

いつの間にかアラかんと呼ばれる年代になったが、この年になって生活をガラリと変えることにした。この連載ではその変容を書き記してみたいと思う。

## 第1回 自動車生活からの脱却

手始めに、これまでどっぷり浸かっていた車中心の生活から、公共交通機関を軸とした生活に変えつつあるお話。

### 18の年から今まで約40年

18で免許を取ってから、ずっと車中心の生活だった。毎日の通学・通勤、週末の買い物、そして旅行も。運転することそのものが好きだった。しかし5・6年ほど前から運転がちょっと億劫に感じるようになってきた。そんな中、3年前に疲れから帰宅中に居眠り運転をしてしまった。さいわい低速だったので、たいした事故にはならなかったから良かったものの、それまでも走行中に中央分離帯に接近していてドキッとした経験は何度もあった。これはイカン、そのうち大事故をひき起こすのでは、という怖れを感じた。

そして昨年までの職場はろくにバス便がない僻地だったのだが、今年度から能勢電鉄の日生中央駅の近くとなった。通勤は必ずしも自動車を使う必要は無くなったのである。

### 自動車の維持費

情けない話だが、この年になって金欠である。そうなるとう自動車関連の諸費がけっこう大きいことに気づいた。仮に10年間、車を乗り続けるにはどのくらいの費用がかかるのか、計上してみた。

自動車購入費…ピンキリだろうが、まあ	…	300万円
自動車税…年5万円として	…	50万円
任意保険…車両保険をつけるとけっこう	年6万として…	60万円
駐車場代…うちのマンション高いんです	月1.3万	… 156万円
車検にかかる諸費用・整備費	平均10万として	… 50万円
タイヤやバッテリー、オイルなどの消耗品	…	70万円
これだけでも		686万円



# アラクン 新生活



1年あたりにすると68万円、1月あたりで5.5万円。他にも走った分だけガソリン代がかかるし、高速代やら外出先の駐車料金やら。下手したら罰金とかも計上する必要も。これらも加えると月あたり7万円くらい必要になるだろう。若者のクルマ離れも理解できるというものだ。

## まずは通勤方法から

ということで先月12月から通勤方法を自動車から電車・バスに変更することにした。一気にクルマを手放したいところだが、これは家庭の事情で3月いっぱいまでは維持することにした。まあ自動車税がかかる4月までの間は、負担は駐車場代だけである。

ちなみに職場の人は、バス停から歩いている私を見て、本気か冗談か「免許返納したんですか？」などと聞いてくる。そこまでじゃねーわ(笑)。

## 自動車生活をやめるメリット

なんといっても上記の自動車関連の費用カットは大きい。月7万円が浮くとかなりラクである。そして今の仕事を続ける限り、通勤にかかる交通費はすべてお上が負担してくれる。次に安心感。自分の運転が原因で他人を傷つけたり迷惑をかけることはない。3つめとして、そもそも私は他の乗り物も好きである。小学生の頃はバスの運転手に憧れていた。それが鉄道に移り、クルマに移ったということなので、加齢とともに、運転(操縦)よりも乗るという原点に興味に戻ったとも言える。最後に時間の有効利用や見聞が広がった。通勤時間は2倍以上に増えたのだが、読書や調べ物、そして居眠りなど自由に使える時間となった。最後に寄り道ができるようになり、それまで道路沿いには無かったような小売店に立ち寄れるようになった。10代から車中心の生活だったので、雑貨店などに立ち寄ったことがなく、この年になって新鮮な経験をしている。

## 自動車生活をやめるデメリット

悪天時はつらい。予期せぬ雨や、寒風の中で遅延するバスを待つのは、これまでのクルマ通勤には無い試練?である。また帰りのバス便の頻度がアンバランスで、10分間に3本立て続けに来るくせに残りの50分は来ないというダイヤである。まあ、そのおかげ?でダラダラと職場に残ることもなくなり、ひとり働き方改革を実施中である。大きな荷物(私物のモニタとか)も持ち運びできなくなったが、転動しない限りはそんなに必要はなさそうである。

ということで車生活脱却の手始めとして、通勤方法を変えてみたことは今のところ、順調である。この12月の能勢電鉄のダイヤ改正や8月から乗り始めた電動バイクの存在も大きい。次回からそのあたりも綴っていきたいと思う。そしてクルマの売却を2ヶ月先に定めているので、いずれその話も。ではまた。